

| | | | | | | |
|--|----------------|--|----------------------|-------|--|--|
| 平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | | |
| 教科目名 | 環境計画学 | 担当教員 | 青木哲 | | | |
| 学年学科 | 2 年次 建設工学専攻 | 後期 | 選択 | 2 単位 | | |
| 学習・教育目標 | (D-3 環境系) 100% | | JABEE 基準 1 (1) : (d) | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 建設物の環境計画に関わる幅広く最新の知識の習得を目的とし、特に、持続可能な地域社会を目指したヨーロッパの環境対策に注目する。ヨーロッパにおける環境対策を、文化・風土の視点を交えて学び、日本との相違点を知ることにより、環境計画に携わる技術者としての知識理解の一助となることを期待する。具体的な目標は以下の通りである。 (1) 欧州におけるエネルギー対策についての概念およびその手法の習得。 (2) 持続可能な社会システム・都市計画・土地利用計画とその変遷。 (3) 廃棄物の軽減および再利用手法の習得。 (4) 新エネルギー・省エネルギーの計画と評価手法の習得。 (5) 日本と欧州の政策の違いやヨーロッパの持続可能な農業についての概念およびその手法の習得。 | | 成績評価の方法： 課題評価（プレゼンテーション含む）60%、期末試験 40%、これらの総得点率（%）によって成績評価を行なう。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 以下の各項目に対し、6割以上の正確な知識を有していること。 なお、成績評価への重みは(1) : (2) : (3) : (4) : (5) = 1 : 1 : 1 : 1 : 2 とする。 (1) 欧州における省エネルギー手法についてその理念、概要をほぼ正確（6割以上）に説明できる。 (2) 持続可能な社会システム・都市計画とその変遷について、ほぼ正確（6割以上）に説明できる。 (3) 廃棄物の軽減および再利用の手法をほぼ正確（6割以上）に説明できる。 (4) 新エネルギー・省エネルギーの計画と評価手法に関する計算問題をほぼ正確（6割以上）にできる。 (5) プレゼンテーション能力を發揮し、与えられた環境問題の内容についてほぼ正確（6割以上）に説明できる。 | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： ヨーロッパ各国における環境対策の事例を紹介し、また日本における環境対策への事例、過去と現在における環境配慮への姿勢の比較を行う。学生は並行して様々な環境先進国や伝統的な環境配慮の事例について調べ学習を行い、理解を深めること。また、環境計画の概念の成り立ちや創意工夫などをまとめ、発表できるようにすること。環境問題に関する英語論文の輪講も行う予定である。 | | | | | | |
| 教科書および参考書： 参考書：ドイツの市民エネルギー企業（村上敦他，学芸出版会），スウェーデンの持続可能なまちづくり（高見幸子監訳・編著 新評論），自然エネルギーの可能性と限界（オーム社）ほか | | | | | | |
| 授業の概要と予定： | | 教室外学修 | | ALレベル | | |
| 第 1 回：スウェーデンにおける環境対策の枠組み | | ナチュラステップとエココミュニケーションについてまとめる。 | | | | |
| 第 2 回：再生可能なエネルギーへの転換 | | 他国の新エネルギーの活用の事例を調べる。 | | | | |
| 第 3 回：環境に配慮した交通施策 | | 他国の環境に配慮した交通施策の事例について調べる。 | | | | |
| 第 4 回：環境配慮型住宅 | | 他国の環境配慮型住宅の事例について調べる。 | | | | |
| 第 5 回：ドイツのエネルギーヴェンデとは | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 6 回：ソーラーコンプレックス社の取組 | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 7 回：市民エネルギー組合の活動 | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 8 回：電力市場自由化によるドイツ電力業界の転機 | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 9 回：風力発電とバイオガス活用 | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 10 回：廃棄物の軽減と再利用 | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 11 回：欧州各国のエネルギー政策（1）ドイツ | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 12 回：欧州各国のエネルギー政策（2）オーストリア | | 課題発表の準備を進める。 | | B | | |
| 第 13 回：欧州各国のエネルギー政策（3）スイス・イタリア | | 日本のエネルギー政策との相違を調べる。 | | | | |
| 第 14 回：日本における環境対策の枠組み | | 日本における環境計画の枠組みと他国との違いをまとめる。 | | | | |
| 期末試験 | | | | | | |
| 第 15 回：2017 年最新の環境問題の動向について | | | | | | |

評価（ルーブリック）

| 達成度 評価項目 | 理想的な到達 レベルの目安 (優) | 標準的な到達 レベルの目安 (良) | 未到達 レベルの目安 (不可) |
|-------------|---|---|---|
| ① | 欧州における省エネルギー手法についてその理念・概要を正確（8割以上）に説明できる。 | 欧州における省エネルギー手法についてその理念・概要を、手法をほぼ正確（6割以上）に説明できる。 | 欧州における省エネルギー手法についてその理念・概要を正確に説明でない。 |
| ② | 持続可能な社会システム・都市計画とその変遷について、正確（8割以上）に説明できる。 | 持続可能な社会システム・都市計画とその変遷について、ほぼ正確（6割以上）に説明できる。 | 持続可能な社会システム・都市計画とその変遷について、正確に説明でない。 |
| ③ | 廃棄物の軽減および再利用の手法を正確（8割以上）に説明できる。 | 廃棄物の軽減および再利用の手法をほぼ正確（6割以上）に説明できる。 | 廃棄物の軽減および再利用の手法を正確に説明でない。 |
| ④ | 新エネルギー・省エネルギーの計画と評価手法に関する計算問題を正確（8割以上）にできる。 | 新エネルギー・省エネルギーの計画と評価手法に関する計算問題をほぼ正確（6割以上）にできる。 | 新エネルギー・省エネルギーの計画と評価手法に関する計算問題を正確にできない。 |
| ⑤ | プレゼンテーション能力を発揮し、与えられた環境問題の内容について正確（8割以上）に説明できる。 | プレゼンテーション能力を発揮し、与えられた環境問題の内容についてほぼ正確（6割以上）に説明できる。 | プレゼンテーション能力を発揮し、与えられた環境問題の内容について正確に説明でない。 |